

第1号議案

令和元年度事業報告

自 平成31年4月 1日
至 令和 2年3月31日

I. 会員の状況

令和2年4月1日現在の正会員数 31社
令和2年4月1日現在の賛助会員数 38社

II. 会議

1. 総会

◇第8回通常総会 令和元年5月24日 <於(一社)日本橋梁建設協会>
議案審議：第1号議案 平成30年度事業報告
第2号議案 平成30年度収支決算報告
第3号議案 役員改選
説明会：「2019年度事業計画、収支予算」
「2019年度橋建協重点活動テーマ」

◇臨時総会 令和元年9月25日 <於(一社)日本橋梁建設協会>
議案審議：第1号議案 監事選任

2. 理事会

◇第49回理事会 平成31年4月18日 <於(一社)日本橋梁建設協会>
(1) 第8回通常総会議事および進行(案)について
(2) 第8回通常総会議案書(案)について
・第1号議案 平成30年度事業報告
・第2号議案 平成30年度収支決算報告
・第3号議案 役員改選
(3) 役員候補者の推薦(案)について
(4) 本年度 重点活動・意見交換会テーマ(最終案)について
(5) 「建設技能者の能力評価制度対応特別WG」設置について
(6) 2020年度以降出向会社(案)について

◇第50回理事会 令和元年5月24日 <於(一社)日本橋梁建設協会>
(1) 会長の選任について
(2) 副会長、専務理事の選任について
(3) 各委員会委員長の選任について
(4) 顧問の委嘱について

◇第51回理事会 令和元年7月25日 <於(一社)日本橋梁建設協会>
(1) 指定代表者変更及びそれに伴う役員選任について
(2) 賛助会員入会申込について
(3) 2019年度 海外視察団について

◇第52回理事会 令和元年9月25日 <於(一社)日本橋梁建設協会>

(1) 2020年度IAESTEインターンシップ受入について

◇第53回理事会 令和元年11月28日 <於(一社)日本橋梁建設協会>

(1) 廣井勇の銅像建立への寄付について

◇第54回理事会 令和2年1月30日 <於(一社)日本橋梁建設協会>

(1) 2020年度重点活動、意見交換会テーマ検討について

(2) 2020年度 行事予定(案)について

(3) 海外交通・都市開発事業支援機構(JOIN)への出向依頼

(4) 災害時支援体制ガイドラインの改定(案)について

(5) 2020年海外視察(案)について

◇第55回理事会

【新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ、同意書(3月31日)にて議案決議】

(1) 2020年度 事業計画 収支予算(案)について

(2) 2020年度 重点活動・意見交換会テーマ(4/19本省案)について

(3) JICA集団研修「講師、製作工場、工事現場」対応について

Ⅲ. 常設委員会の活動報告

1. 企画委員会

令和元年度 建設業界では、担い手確保に向けた建設技能労働者の処遇改善や週休二日制を推進すべく「働き方改革」、i-Construction(i-Bridge)を活用した「生産性向上」といった政策がキーワードとなった。

以下に協会活動を報告する。

(1) 企画委員会活動について

当委員会の活動概要を時系列に報告する。

- ・4月、国土交通省道路局との意見交換会を実施、
 - ・6月以降は、重点活動テーマとして策定した3テーマに関して、例年どおり6月26日の中国地方整備局を皮切りに10月2日の近畿地方整備局まで国交省の全地方整備局、北海道開発局、沖縄総合事務局との意見交換会を実施した。
- また、国交省以外の発注機関では、首都高速道路、阪神高速道路、NEXCO3社と役員幹部級との意見交換会を実施した。

(2) 企画委員会主導で本年度実施したワーキング活動について

当委員会主導で実施したワーキング活動に関して以下を報告する。

- ・鋼橋の普及啓発WG

鋼橋の普及を図るため、個別プロジェクトと対応として、「大阪湾岸道路西伸部」および「下関-北九州道路」での鋼橋採用のためのPR活動を実施した。大阪湾岸道路西伸部では12月11日に「海上部の長大橋での鋼製斜張橋の採用」が発注機関から発表された。

下関北九州道路は昨年3月に橋梁が(トンネルより)やや優位と発注機関から発表された。

今年度のWGとしては吊橋用ケーブルの新材料や施工方法の検討を実施しており、次年度以降も検討を継続する。

・令和2年度重点活動・意見交換会テーマ検討WG

来年度の重点活動テーマについて、4月の国土交通省道路局意見交換会および5月の第8回通常総会までに取りまとめ予定で活動中。

2. 広報委員会

令和元年度は、広報活動について関係各所よりご指摘を受けたことにより、積極的に変わることを第一義として進めることにした。そのために設定したテーマを次に示す。

- ◎世間一般の方々へ、鋼橋の重要性と専門業者として対応していることをアピール
- ◎高校・中学生徒、小学児童へ、格好良さをアピール
- ◎関連学部専攻中の学生へ、鋼橋業界に就職するためのリクルート支援を含めた宣伝活動実施
- ◎協会内若手社員向け教育の充実
- ◎発注実務者や建設コンサルタンツ協会との積極的な意見交換実施

(1) 橋梁事業全般への理解促進

○東京都イベント 橋と土木展 (東京新宿)

4日間で5万人を超える方々が来場され、協会ブースにも多数の方が来場

協会は、①VRによる橋梁空中散歩とCGモデル体験②グルーガンでの橋梁模型製作を、小学生からご老人まで幅広い年齢層の皆様が体験された

○首都大学東京 学園祭 (東京 南大沢)

3日間で百名を超える一般の方々と在学生の皆様にVRおよび模型製作を体験

会員会社に就職予定の学生もおり、現状のリクルートについて意見徴収を実施

○小中学生への現場見学会、高専・大学への出前講座、橋梁模型コンテストへの協賛

将来の担い手へ向けて積極的に実施

(2) 発注者（管理者）との意見交換

○実務者意見交換会 (直轄8局：技術調整管理官をトップとして、地区事務所メインにて実施)

公告、入札、受注後の課題や、工事進行中の対応への意見などを中心に議論を行う

○地方公共団体との意見交換会 (群馬県、東京都、静岡県、石川県、三重県)

情報交換を含めた議論を行う

(3) WGなど委員会活動 (広報委員会主幹のみ)

○戦略広報WG

協会内で若手社員を募集により11社11名が参加し、今後の協会広報について検討中

中学・高校生をターゲットに、親しみやすい広報とするにはどうするか、SNSの活用やキャラクターの利用など、自由な若い発送で議論

○ブリッジトーク

例年若手技術者の知識向上を目的に開催していたが、今年度は通常の大学教授からの専門的講座、発注者から見た業界への提言だけでは無く、少し違った視点でのテーマ設定でも実施

・賛助会員との交流 (実務で必要になった時の連絡先を知るなど)

・大学、高専と各社リクルート担当との交流 (学生の意識、会社の要望などをお互いを知る場)

○虹橋WG

今年度は7月に虹橋83号を発刊、特集は昨今頻発する災害時に活躍する応急組立橋を紹介

○橋梁年鑑WG

令和2年度橋梁年鑑発行用、グラビア選定及び橋梁データチェック

○情報発信機能の強化

- ・専門誌、専門雑誌への記事投稿
- ・地区事務所との連携による各発注者へのPR活動強化
- ・一般の方々からの問い合わせに適宜対応

(4) 部会活動

○製作積算部会

鋼橋担当である近畿地整に対し、新鋼材（SBHS 材）の歩掛の継続提案および新たな輸送起点の提案、諸経費を要望、実態調査分析による工数の是正を提案

○現場施工積算部会

鋼橋架設（新設）積算に係る調査・研究・歩掛策定および積算講習会講師対応
SCOPE発行の海上橋梁架設工歩掛（案）別冊版の積算標準化に向け要望活動
『港湾新技術・新工法積算基準ライブラリー No.11』として掲載

○間接費積算部会

会員向け諸経費動向調査等説明会にて、継続的な会員会社への意識向上対応実施
諸経費動向調査担当の関東地整に、判りやすい調査票入力および間接工事費実績方式拡大を提案

○契約制度部会

不調不落対策事例について、調査と発注者協議を実施
品確法第22条に基づく発注関係事務の運用に関する指針（改正案）協会内意見取りまとめ
週休2日制試行工事の現状について調査・とりまとめ

(5) 地区事務所活動

○北海道事務所：橋梁技術発表会や学生への出前講座などを通じ、鋼橋PR活動を実施

○東北事務所：一般向けにEE東北に出展しVRなどを用いたPRを実施、関連学部専攻向けに出前講座を通じリクルート支援を含めたPR、高校生向け橋梁模型コンテストにより製作の面白さをPR、小学生向けとしてサイエンスデイの紙による橋梁製作の楽しさをPR

○関東事務所：東京都と群馬県で意見交換会を実施（群馬県は台風による影響で要望書提出のみ）
群馬県に合成床版製品費の管理費対象の見直しを要望し、現場管理費率の対象に変更が叶った
関東技術事務所「夏休みこども体験教室」、群馬県「土木の日イベント in ぐんま」等のイベントに参加し、広く一般の方々に鋼橋の魅力をPR

○北陸事務所：北陸地整と第3回北陸橋梁保全会議を共催、ブース出展などPR活動を実施

○中部事務所：「建設技術フェア in 中部」にブース出展し、鋼橋の魅力についてパネル展示やVR体験によりPRし、124名の大学・高校生がブースに来場

○近畿事務所：建設技術展、近畿技術事務所ふれあい土木展への出展、近畿地整や高速道路会社との意見交換会、技術発表会の開催や建設技術展、各大学や高専への出前講座、ブリッジトーク、神戸市模型コンテスト、建設技術展キャリア支援活動、明石鋼専イベントや橋の魅力発信プロジェクト、大阪府・狭山池博物館や兵庫県シンポジウムブース出展など各方面へのPRを実施

○中国事務所：建設技術フォーラムに出展し、VR体験など学生始め多数に鋼橋の魅力をPR

- 四国事務所 : 意見交換会時に四国地整からの要望を受け、設計成果の品質向上に向けた検討の場として、「設計成果品質確保検討委員会」に参画、協力継続中
- 九州事務所 : 橋梁三力研究会として橋建協、建コン協、PC建協3協会の若手技術者が人事交流を行い、広報WG・資料WG・新技術WGにて若手目線での研究活動を実施
九州工業大学開催のJSBCにおいて後援し、企業ブースを設置しPRを実施
建コン協と両者の問題や疑問をについて意見交換を実施
- 沖縄事務所 : 鋼橋技術講習会を通して発注者や施工業者に鋼橋のPR活動
琉球大学での出前講座にて、沖縄地区の若い世代に鋼橋への理解を求める

3. 技術委員会

発注者、国総研、土研、大学、関連学協会との共同研究・委託研究、意見交換等を通して、鋼橋の市場拡大、多岐にわたる技術的課題の解決に取り組んだ。

以下に、技術委員会共通、各小委員会での活動内容を報告する。

(1) 技術委員会共通

道路橋示方書改定にともなう便覧類の改定、発注者や大学への講師、委員の派遣、建設コンサルタントや日本鉄鋼連盟等の関連団体との意見交換会を開催し、鋼橋の市場拡大に努めた。また、国土交通省に関しては、BIM/CIM推進委員会の各WGへ参加し、当協会仕様のガイドライン反映のために活動した。長大橋が計画されている大阪湾岸西伸部および下関北九州道路においては、協会内の普及啓発WGの各々のプロジェクト分科会の中心メンバーとして、阪神高速道路の鋼構造物検討委員会を通じた技術的サポートや技術検討を継続して実施している。

以下に主な活動内容を示す。

- ① 設計・施工の各便覧改定の委員会、WGへの参画
- ② i-Bridge推進特別WGを中心メンバーとして活動
- ③ 大阪湾岸西伸部に向けた阪神高速道路(株)への技術的サポートの実施（鋼構造物検討委員会）
- ④ 下関北九州道路に向けた吊橋PRのための技術検討及びPR資料の作成
- ⑤ 大学(出前講座)、発注者の技術研修会への講師の派遣
- ⑥ 技術発表会での講演
- ⑦ 国総研からの受託業務（鋼橋の現位置改良工法の開発）の成果発表（土木学会全国大会、日本道路会議）

(2) 設計小委員会

国総研、土研との共同研究を行い、発注者が直面している技術的課題の解決に努めた。また、鋼道路橋設計便覧や耐震設計便覧の改定WGや疲労設計便覧やケーブル便覧の作成WGに参画したほか、H29道路橋示方書を用いた設計に対する質問事項に対応し、理解を深めていただいた。橋建図書についても改定を進めており、連続合成2主桁橋、落橋防止装置および伸縮装置の改定版を発刊したほか、細幅箱桁の改定に着手している。

以下に主な活動内容を示す。

- ① 耐久性向上のための高機能鋼材の道路橋への適用に関する研究（土研、PC建協、鋼構造協会）

- ② 鋼橋の性能評価、回復技術の高度化に関する共同研究（国総研、土研、鉄連、有識者）
- ③ BIM/CIM推進委員会，活用促進WGにて事例の検証（技術調査課・国総研、建コン協、J A C I C）
- ④ 鋼橋小委員会に参画し、鋼道路橋設計便覧、補修補強便覧、耐震設計便覧、疲労設計便覧、ケーブル便覧および伸縮装置便覧の改定や作成（土研、国総研、学識者、建コン協）
- ⑤ 鋼橋小委員会に参画し、道路橋示方書に対する質問事項に対応（国総研、土研、建コン協）
- ⑥ 道示改訂特別WGにて合成桁の適用拡大や非合成桁の照査法を検討
- ⑦ 阪神高速道路 鋼構造物検討委員会への参画（阪神高速、学識者）
- ⑧ 連続合成2主桁橋、伸縮装置、落橋防止装置等、橋建テキストの改定

（3）製作小委員会

製作部会では、製作時の各社の諸問題への対応、ミルシートの電子化の検討、輸送マニュアルの改訂作業などを行い、また、溶接技術に関しては、組立溶接の規定緩和を目的とした試験施工などを行った。耐候性鋼橋梁部会では、耐候性鋼橋梁の経年調査および各種表面処理剤に着目した曝露試験などを行った。防食部会では、各種の防食仕様の曝露試験体の経年調査を継続的にを行い、その適用性などについて検討した。

以下に主な活動内容を示す。

- ① 工場製作、検査に係わる各種問題点の意見交換と検討
- ② ミルシートの電子化の検討（鉄連と共同で実施）
- ③ 輸送マニュアルの改訂作業
- ④ 阪神高速の鋼管集成橋脚（スパイラル鋼管）の施工に関する検討
- ⑤ 組立溶接のヒールクラックの実験検証（日本溶接協会との共同研究）
- ⑥ 耐候性鋼橋梁の経年調査および各種表面処理剤に着目した曝露試験（琉球大学との共同研究）
- ⑦ J S C C 「鋼橋の強靱化・長寿命化研究委員会／鋼橋の腐食・耐久性研究」への参画
- ⑧ 各種防食仕様（塗装・溶射など）の曝露試験体の経年調査
- ⑨ AlMg溶射＋フッ素塗装の耐用年数に関する検討

（4）架設小委員会

技能者・技術者育成・確保のための講習会、資格・評価制度の推進、設計成果品質向上検討会への参加、安全施工資料等を提供することで、鋼橋の普及、市場拡大に努めた。

以下に主な活動内容を示す。

- ① 鋼道路橋施工便覧の改訂作業、道路橋ケーブル便覧の作成作業
- ② 架設工事における事故防止対策（含墜落）の推進、足場の安全性向上に係る技術検討
- ③ 実施機関認定取得に向けた建設技能者の能力評価制度の検討
- ④ 登録橋梁基幹技能者の育成・確保を目的とした認定講習会および資格更新の継続実施
- ⑤ 鋼橋建設技術者安全衛生講座（工事計画参画者コース）の継続実施
- ⑥ 建設マスターおよび建設ジュニアマスターへの応募の推進
- ⑦ 橋梁特殊工の就労者調査の継続実施
- ⑧ 輸送マニュアル（海上輸送編）の改訂作業
- ⑨ 工事現場業務の簡素化推進WG会議への参画
- ⑩ 長大橋等大型プロジェクトに関する架設調査研究
- ⑪ 架設計画等の設計成果品質向上検討会への参画

(5) 床版小委員会

R C床版、合成床版、鋼床版のさらなる品質向上、および直面する課題である、寒冷地におけるR C床版の凍害対策と施工方法、合成床版の維持管理手法、床版取替え、鋼床版の疲労対策等に関して、官学共同で調査研究を行った。

以下に主な活動内容を示す。

- ① 便覧改定資料の作成 (WG対応)
- ② R C床版の耐久性向上技術の研究 (日大)
- ③ 合成床版の性能評価法の研究
- ④ 合成床版の設計法に関する解析的研究 (横浜国大)
- ⑤ 手引き改定資料の作成 (合成床版、RC床版、PC床版、I形鋼格子床版)
- ⑥ 道路橋床版の凍害研究 (北大・寒地土研)
- ⑦ 床版取替え工法の研究
- ⑧ 合成床版およびPC床版の施工実績調査とまとめ
- ⑨ 鋼床版の疲労損傷メカニズムの解明と高耐久性鋼床版構造に関する研究 (九州大、名古屋大、法政大、首都大学東京、関西大)
- ⑩ 取替え鋼床版と主桁との接合方法に関する研究 (法政大)
- ⑪ 研究成果の海外への発信および海外橋梁の調査 (鋼床版国際会議への参加)

4. 保全委員会

橋梁保全工事に関する要望事項の全てをまとめた「保全工事発注時の留意事項」(四国地整と共作)を用いて、国土交通省と各整備局手に対して要望を行った。また、比較的新しい契約制度のECI方式についても、引き続き建設コンサルタント協会と勉強会を行った。鋼橋の魅力を伝えることによって、保全工事の配置技術者を増やすための活動[みかんPJ(戦略広報WG)]を広報委員会と開始した。

(1) 橋梁保全工事の環境整備

① 適正な入札・契約制度

- ・昨年度、四国地整とまとめた「保全工事の発注時の留意事項」を、より詳しい説明を加える改定を行った。また、これを用いて条件明示や適性工期、直接工事費の見積もり徴収、配置技術者の途中交代などの施工者側の要望事項を各地整に要望した。
- ・広報委員会の契約制度部会、中国地整、建設コンサルタント協会と連携し、ECI方式の、課題抽出や改善に関して検討を行った。

② 会員各社の橋梁保全事業への参加推進

- ・会員会社の保全工事への参加を促進させるための保全工事の環境整備事例の説明会は新しい報告事項が少ないため、今年は取りやめ適宜開催することとした。

(2) その他

① i-Bridge (大規模災害への準備)

- ・i-Bridge 推進WGに参画し、保全に関するi-Bridgeの検討を行った。震災時の効率的な点検を可能とする「仮称；B-MA P」について仕様の検討を行い、システムの開発を開始した。

② 共同研究

- ・国総研と2つの共同研究「施工管理記録の維持管理への活用に関する共同研究」

「鋼橋の性能評価、回復技術の高度化に関する共同研究」を行った。

③ 意見交換会・技術講習会

・前年度と同様に各地整との意見交換会、各自治体への講習会等を通じ、事業環境整備を要望した。

④ 保全工事の魅力伝達

- ・広報委員会と連携して、明石高専での1日限定鋼橋専門学校を開校した。東京都からの依頼で「橋と土木展」、首都大学東京の学園祭に参加し鋼橋・保全工事の魅力を伝えた。
- ・各社から若手11名を集め、鋼橋の未来について考え広報するプロジェクト「みかんPJ」を組織し活動を開始した。月一回の検討会や上記のイベント等に参加させた。
- ・昨年度に作成した保全工事の魅力を伝える動画をYouTubeにアップロードするとともに、意見交換会で動画の告知を行った。

5. 品質・環境委員会

令和元年度は、鋼橋工事で会員各社が最近経験した設計、製作、架設の失敗体験を収集し、トラブル事例として取りまとめるとともに、セミナー用のパワーポイントを作成した。また、会員各社の品質向上・人材育成活動として、3月に「品質・環境セミナー」を開催した。さらに9月には、環境改善活動の一環として品質・環境委員会の委員で、異業種の環境改善状況の視察を行った。

主な活動内容は以下の通りである。

(1) トラブル事例の整備

・技術委員会メンバーから設計・製作・架設の失敗事例を収集し、所定の様式に失敗の現象・原因・対応策をまとめトラブル事例として整備した。

(2) トラブル事例等のパワーポイント作成

・最新のトラブル事例及びアドバイス資料等をパワーポイントで作成し、会員用のホームページへ登録した。

(3) 品質・環境委員会セミナーの開催(CPDS 5ポイント対象)

以下のテーマでセミナーを開催した。

・平成31年3月10日

(テーマ)

① 橋建協HPからトラブル事例集へのアクセス方法

トラブル事例(設計・製作・架設)の原因と対策+ワンポイントアドバイス
鋼橋関連の豆知識

② [特別講演] 「未定」

講師：ものづくり大学 大垣教授 様

※セミナーの配布資料(PPT)は、品質・環境委員会のホルダーへ登録済み

6. 安全委員会

令和元年に協会々員会社で発生した休業4日以上労働災害は10件となり、平成26年から6年連続で災害件数が10件を超えている。特に平成28年の新名神高速道路建設現場で発生した重大事故に続き、平成29年、平成30年と連続して8件の墜落災害が発生していた。

令和元年は、墜落災害5件に減少し、加えて死亡災害は0件を記録した。災害統計を始めて40年間で3度目の死亡災害ゼロを達成したことは、大変喜ばしい。しかしながら、協会および会員会社の墜落災害防止に対する取り組みは、まだ道半ばであり、墜落災害完全撲滅の実現はまだまだ厳しい。安全委員会として平成30年度に再発防止対策を検討し、橋建統一行動のリニューアルを発表したが、その定着と次の一手を急ぐ必要がある。

以下に令和元年度に実施した主な活動実績を報告する。

(1) 安全委員会共通

- ・第24回安全責任者連絡会総会・安全研修会を令和元年6月14日に開催した。同日の安全研修会では、国土交通省内閣官房技術調査課川尻課長補佐様による講演を実施した。また、安全推進小委員会、安全管理小委員会からは平成30年度活動報告を行い、幹事長から墜落災害撲滅に向けた橋建統一行動の見直しについて説明し、加えて安全管理小委員会から「安全衛生Q&A」改定のポイントについて説明した。
- ・高速道路会社（西日本）の実務者級意見交換会に参加し、具体的な環境改善に向けた意見交換を実施した。
- ・国交省、高速道路会社各社、地方自治体等の発注者から要請のあった安全講習会、パトロール、安全大会等、発注者が実施する安全活動に参画した。
- ・関係団体が実施する講習に講師を派遣した。
 - ①建設技術者安全衛生管理講座（計画参画者コース）
 - ②登録橋梁基幹技能者講習
- ・名古屋高速道路公社と福岡北九州高速道路公社の安全管理アドバイザーとして委員を派遣。

(2) 安全管理小委員会

- ・NEXCO西日本関西支社管内安全協議会総会に委員を派遣した。
- ・令和2年度の安全ポスター、安全標語を募集し、応募作品から施工中と完成時の写真ポスター（各1点）とイラストポスター1点および標語4点を選んだ。入選作品は、6月の安全責任者連絡会総会で表彰する予定。
- ・「鋼橋架設工事における墜落事故防止対策」を鋼橋架設工事全般の事故防止に拡大した「鋼橋工事労働災害防止指針」（案）を検討中であり、令和2年度に発行する予定。
- ・「鋼橋架設工事における墜落事故防止対策」に示していた具体的な対策の一つである「標準作業手順書」（案）を検討中であり、令和2年に発行する予定。

(3) 安全推進小委員会

- ・自主パトロールとして東北地整管内での稼動中現場一斉パトロール（対象15現場、11～12月）および中部地整管内の高山ICにて合同研修会を9月5日発注者と共同開催した。
- ・会員会社から提供された事故・災害情報の水平展開
災害発生事例（休業4日以上）を安全責任者宛にメールで送付し、類似災害防止を要請した。年度途中から、指定代表者にも情報送信を開始した。令和元年に発生した災害情報を橋建協災害データベースに登録した。
教育資料としても使えるように作成した「わかりやすい災害資料」を【暫定版】を令和2年4月上旬、【正式版】は令和2年6月に各社に配布予定である。

平成28年から協会として休業4日未満の災害事例も追加収集している。
(集計結果は令和2年6月に配布予定)。

7. 海外事業委員会

(1) 活動実績：

今年度の活動方針及び調査研究課題に従い海外事業委員会を4回開催した。
また、1月に初の試みとして、今後橋梁 ODA が多く期待されるフィリピンへ、鋼橋の採用拡大プロモーションを目的としたミッションを派遣した。

<主な活動内容>

- ① 海外視察団の派遣：
10月にドバイ・アブダビ・シンガポールに派遣した。
- ② バングラデシュ国チッタゴン～コックスバザール間道路整備計画に関する JICA への鋼橋プロモーション活動：
初の試みとして、11月に石原委員長以下にて JICA 原南アジア部長と面談。
上記案件での鋼橋採用を陳情すると共に、今後の南アジア諸国での我が国 ODA 動向を聴取した。
- ③ PIARC 2019 アブダビ大会への参加：
今年度海外視察の一環として、2019年10月に開催された PIARC 2019 アブダビ大会に参加すると共に、日本展示ブースに出展した。
- ④ JICA の依頼対応：
11月に JICA の求めで、ウクライナ ミコライウ橋建設事業につき意見交換を行った。
- ⑤ JICA 及び国建協海外案件説明会参加：
海外橋梁案件に係る国内説明会への参加招聘に応じ、会員企業に加え事務局からも参加。
情報を蓄積・共有した。
- ⑥ 国内橋梁建設現場視察
これも初の試みとして、今後、ガーナ、ケニア、ウクライナ等への橋梁 ODA で採用が計画されている斜張橋に関する知見を高めるために、気仙沼湾横断橋朝日地区上部工工事を視察した。

(参考) 今後1年以内に入札が予定されている主要海外 ODA 鋼橋梁プロジェクト

案件名	種別	所在地	案件概要
アビジヤン市内高架橋	有償	コートジボアール	アビジヤン市内における3高架橋の建設
橋梁耐震強化		フィリピン	マニラ市内の2河川橋梁架け替え
ボルタ河架橋		ガーナ	複合斜張橋の建設
地方橋梁		ニカラグア	3地方橋梁の架け替え
テマ交差点2期	無償	ガーナ	交差点1カ所での高架橋建設

IV. 特別研究

1. 労務賃金改善等特別委員会

国土交通省(土地・建設産業局 建設市場整備課)が平成24年度より取り組んでいる、技能労働者の処遇改善及び適正な法定福利費の確保に対応して社会保険(雇用保険・健康保険・厚生年金保険)の加入促進を推し進めた。

- ・「社会保険未加入対策推進協議会」が設置され、平成25年度より「建設産業社会保険推進連絡協議会」に名称変更されて、更には平成30年度より「建設業社会保険推進・処遇改善連絡協議会」となり、より一層施策を進めるべく発展している。
橋建協も引き続き協議会に参画して技能労働者の処遇改善に努め、協会員に情報発信を行い、周知・徹底に努めた。
- ・社会保険等加入状況調査を実施し、ほぼ100%の加入状況を把握している。保険加入と併せて標準見積書採用のアンケート調査を実施しているが完全実施がなされていない。
(令和元年度調査結果 採用率 約81%強)
法定福利費を外だしする事により、元請けから、一次以降の下請け業者に完全に行き渡ると考えられる。

2. 鋼橋架設工事の事故防止対策検討特別委員会

(1) 供用中の道路上の橋梁架設工事に伴う安全確保の推進

平成28年発生した橋桁の落下事故、ベントの転倒事故を受け、仮設構造物の安全対策や架設中橋桁の落下防止対策を中心に、今年度も継続して取り組んだ。

主な活動は以下のとおり。

- ・平成28年8月に作成「鋼橋架設工事の事故防止対策」について、講習会や意見交換会等において、発注者や関係した官庁に理解を広めるとともに、会員会社等への更なる周知をはかった。
- ・今年度3回実施した登録橋梁基幹技能者認定講習会の教材に、鋼橋架設工事の事故防止対策を取り入れ、技能者に一層の周知を図った。
- ・H28.6.20国交省通達の3「交通解放時の橋桁と仮設構造物の効果的な固定方法」の課題については、鋼道路橋施工便覧改定に具体内容の記載を昨年度提案済みである。
なお、各会員会社においては、鋼橋架設工事の事故防止対策を踏まえ、慎重に工事を進めているところであり、平成28年の事故発生以降4年間これらと同様の事故は発生していない。

(2) 橋梁架設工事における墜落事故防止対策の推進

昨年度4月に、安全委員会と共同して作成した「鋼橋架設工事における墜落事故防止対策」について、足場の安全性向上に係る技術検討に取り組んだ。

昨年度、パネル足場の仕様、構造、作業手順、強度等の明確化の為、「足場工・防護工の施工計画の手引き」を改訂し、今年度は、各会員会社にパネル足場の使用を推奨し、来年度以降にパネル足場の問題点を使用した各社から情報を収集し、改善点を取りまとめ、リース会社に改善提案をする予定である。

3. 受託業務

下記2件の業務を受託し、調査研究及び検討を行い、成果品の提出や報告論文の投稿を行った。

- (1)「鋼橋の原位置改良工法の開発（その2）」；国土技術政策総合研究所
- (2)「大型クローラクレーン賃料等調査及び橋梁パネル足場工の基礎資料作成補助業務」；(一社)日本建設機械施工協会

4. 出版物発行業務

鋼橋に関する出版物を発行し、各関係機関及び会員等への鋼橋PRを推進した。

(1) 橋建協が発行する協会誌「虹橋」82号を発刊し、「特集：“橋カード”が誘うブリッジツーリズム」等の記事を掲載した。

(2) 平成28年度内に完工（架設完了）した鋼橋の写真、概要等を記載した「橋梁年鑑（平成30年度版）」を発行した。

5. 登録橋梁基幹技能者講習業務

定款第4条（3）橋梁建設に関する啓発宣伝に基づき、橋梁架設現場における基幹技能者の育成を目的として、建設業法施行規則（第18号の3第2項）による国土交通省の登録を受けて、登録橋梁基幹技能者講習を実施した。講習は新規に資格を取得する者に対して「認定講習」を実施した。国土交通省通知（平成24年3月23日付け国土建整第181号）資格有効期限が5年と決まり、これに伴い資格更新を実施した。

(1) 令和元年年7月23日（火）～26日（金）、9月17日（火）～20日（金）、11月19日（火）～22日（金）の各4日間、計3回、登録橋梁基幹技能者講習「認定講習」を実施した。

(2) 平成20年度から実施の「登録橋梁基幹技能者」累計は、915名。

(3) 令和元年度に受け付けた資格更新手続きについては、平成21年度の修了者68名、平成26年度修了者31名が更新を完了した。

6. 技術開発業務

i-Bridge 推進特別WGの活動において、i-Bridge での省力化・安全性向上の一環として実施した前述項 III-1.（2）に記載の i-Belt および i-House についての基本技術の確認試験と検証や、設計と工場製作とのCIMデータの連携仕様の構築のほか、橋梁調査データベースシステム（B-Map）の開発にも着手した。

また、10数年間にわたり基本構成や画面を変更していなかった協会ホームページについて、リニューアルを行った。

7. 「橋の相談室」業務

令和元年度の総相談件数は312件（平均26件/月）あり、相談室（技術顧問として処理した守秘を要する個別案件に関するものは93件（平均8件/月）であった。

相談内容は架設に関するものが最も多く51%であった。相談依頼者はコンサルタントが65%、地方自治体が20%、国交省が6%という割合であった。

表1—「橋の相談室」相談内容内訳

相談内容	件数	割合(%)
設計	7	7
製作	2	2
架設	47	51
保全	23	25
その他	14	15
合計	93	100